

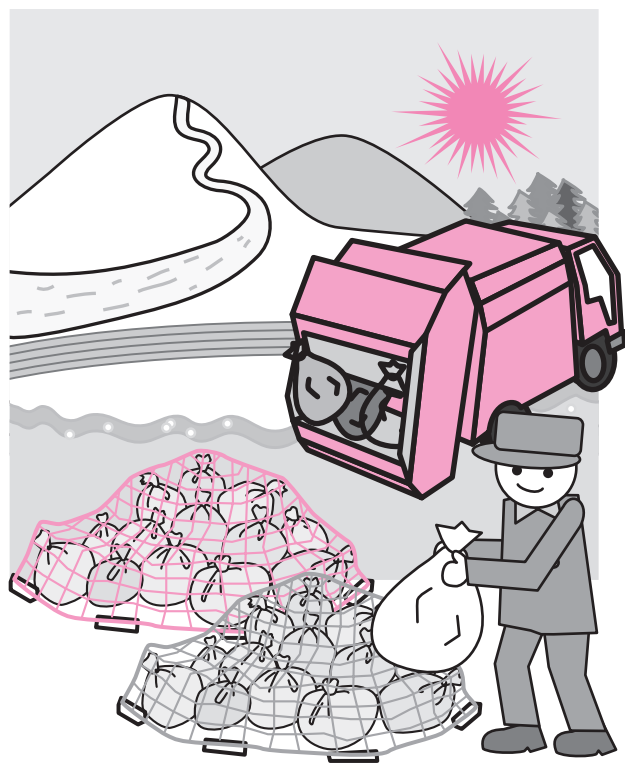
ごみの減量 分別を心がけよう

減量目標は「1人1日11g」

皆さんの生活の中で排出されるごみ。

ごみは、大量消費による天然資源の減少や、地球温暖化をはじめとする環境問題などの原因の1つとなっています。市で定めた「一般廃棄物処理基本計画」における1人1日あたりのごみ排出量の目標値は、923g（平成22年度）ですが、あと11g減らさないと目標を達成することができません。（図1）

今後ともごみを減らすため、一人ひとりが「ごみを減らす」「分別して排出する」などの工夫をお願いします。
問合せ 廃棄物対策課 ☎281・5043



どうしてもごみを減らさなければいけないの？

市内のごみ排出量の現状は、15年度と19年度を比較すると、人口は増えていますが、ごみ排出量は1234t減っています。（図2）

しかし、ごみを処理する時に発生する二酸化炭素による地球温暖化などの環境問題や、最終処分場がなくなってきた状況から、ごみをさらに減らす必要があります。また、皆さんが排出するごみを処理するために、1tあたり約4万円の費用がかかります。

処理費用
ごみ1tあたり
約4万円

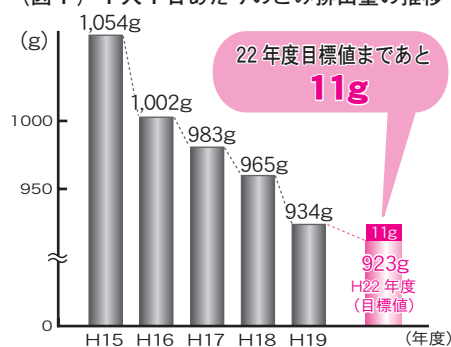
ごみを減らす工夫をしよう

ご家庭ですぐに実践できるごみの減量として、生ごみを減らしてみませんか。

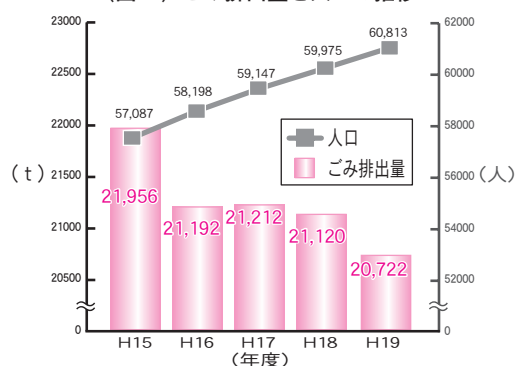
▼ギョツと搾って減量

各家庭で毎日大さじ1杯

（図1）1人1日あたりのごみ排出量の推移



（図2）ごみ排出量と人口の推移



2分の1（最大2万円）を補助します。（購入前に申請）

ごみを出さない工夫をしよう

▼過剰包装は避けましょう

家庭ごみに占める容器包装ごみの割合は容積比で約6割です。

過剰包装は、ごみの増加・資源の浪費となります。贈答の場合にも注意しましょう。

▼マイカップ・マイボトル・マイバッグをしよう

資源節約のため、紙コップなど使い捨てのものをかわず、マイカップ・マイ箸・マイボトル・マイバッグを使いましょう。

▼資源集団回収に参加しよう

市ではリサイクル活動団体に助成金を交付しています。新規団体も随時登録できます。活動に参加してリサイクルの輪を広げましょう。



乾燥式



バイオ式

●購入費補助

1世帯1機まで。購入費の

●生ごみ処理機
生ごみを乾燥・分解させる生ごみ処理機は、ごみの減量に役立ちます。
市の無料体験貸出・購入費補助をご利用ください。

●無料体験貸出

乾燥式とバイオ式の2種類を貸出しています。



「環境にやさしい生活を」

神谷幸枝さん
(南7)

計り売りが多かった昔。

今は、過剰包装のせいか、商品を包むビニールや紙等のごみが多いように感じます。

私は、少しでもごみを増やさないと、買い物にはマイバッグを使っています。また、私がよく行くお店では、マイバッグを使うことでポイントがもらえます。このポイントが貯まっていくことがうれしいですね。

自分ができることから、今後も環境にやさしい生活を心掛けていきたいです。

ごみの分別を
徹底しよう

▼プラスチック製容器包装の
分別を再徹底しましょう



プラマークがあり、汚れていないものが対象です。

●マークのないプラスチック製のカミソリ・おもちや・バケツなど



「一般ごみ」の日に排出

●ライター



▼紙を資源化しよう

一般ごみの中に、資源にできる紙が、混じっています。

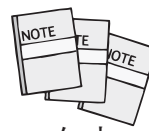
●雑紙(ざつがみ)

紙ごみの中に、新たな分別区分として「雑紙」が加わりました。

雑紙は、新聞・雑誌・段ボール・牛乳パック・紙製容器包装以外の紙です。

(例) パンフレット・コピー

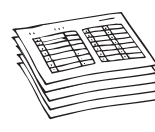
「雑紙」品目の例



ノート



パンフレット



コピー用紙



カタログ

用紙・カタログ・ノートなど
出す日 土曜日(月1回)

出し方 雑誌の間にはさむ
か、紐でしばってください。

混ぜてはダメなもの: 窓付き

封筒の窓、宅配便などの伝票

写真、感熱紙のレシート・フ

ックス用紙等

●紙製容器包装

紙マークがあり、

汚れていないものが

対象です。紐で束ねるか紙袋

に入れてください。包装紙は

折り畳み、空箱は開いてくだ

さい。

(例) 包装紙・お菓子や洗剤

の紙箱など



「レジ袋は、いりません。」お買い物の際にレジで言うだけで、 ごみの減量化をすすめることができます。

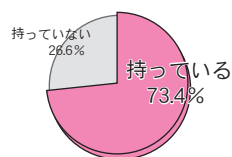
◆レジ袋意識調査 (アンケート結果)

市民を対象にレジ袋の意識調査を実施し、延べ218人の方から回答をいただきました。

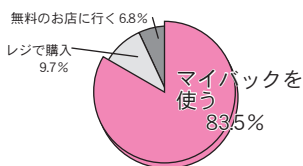
今回の調査結果で、皆さんが、ごみ・環境への関心が高いこと、また、多くの
方々がマイバッグを使っていることがわかりました。



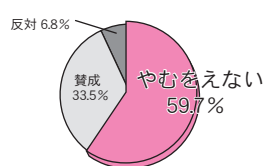
マイバックを 持っていますか



いつも行くお店がレジ袋 無料配布をやめたら?



レジ袋の無料配布廃止を どう思いますか?



《アンケート実施方法》

調査期間	7月31日～10月27日
対象	市民
調査方法	街頭アンケート、リサイクル活動団体へ郵送によるアンケートおよびインターネットでアンケートを実施
回答数	218人

◆レジ袋の削減にご協力ください

当たり前のようにもらっているレジ袋。しかし、レジ袋の原料は石油です。石油資源の枯渇や、製造、廃棄のそれぞれの段階で二酸化炭素(CO₂)が発生し、地球の温暖化が進むなどの問題が生じています。

県や川口市などでは、レジ袋の無料配布の中止(有料化)を行い、ごみの削減を目指しています。

市でも、アンケートの結果をふまえ、レジ袋の削減に向けた取り組みを市内事業者・市民団体等と連携し進めていきますので、皆様のご理解、ご協力をお願いします。

ドラム缶1,800本分



市民1人あたりのレジ袋使用枚数は、1年間に約300枚といわれています。市民(約6万人)全体では、1年間に約1,800万枚のレジ袋を使用することになります。

このレジ袋を作るために必要とする石油は、約36万ℓ(ドラム缶約1,800本)にあたり、レジ袋を削減することで、天然資源である石油が節約されます。

どうしてレジ袋を
減らすの?

大半が「ごみ」として廃棄

主にスーパー等の店舗で買った商品を持ち帰るために使用されているレジ袋。このレジ袋はごみ袋として使用されることもあります。



が、大半はごみとして捨てられているのです。必要以上のレジ袋はもらわず、マイバックを持ち歩くなど、ごみの減量化にご協力をお願いします。